

留学生からみた信州大学の魅力と課題

—全学調査（2009年）より—

牧 かずみ

木暮 律子

信州大学医学部国際交流室

高崎経済大学地域政策学部

キーワード：留学生、日本留学、留学生受入 30 万人計画、信州大学の魅力

要約

世界を相手にした国際化が避けられない現状の中、信州大学にあっても国際化への取り組みが進んでいる。本研究では、信州大学の魅力と課題を明らかにすることを目指し、信州大学の留学生を対象に日本留学の魅力に関する調査を行った。分析の結果、どの国に留学するにしろ魅力的と考えられる「高い教育水準」や「経済支援」、また先行研究が指摘している「高度技術」や「経済の先進性」にも増して、本学では「自然環境や生活環境のよさ」が突出してあげられ、さらに「日本人の伝統的・文化的行動規範」が肯定的に評価される傾向にあった。留学後に実感できる要素が多いことを考えると、個々の期待に対応し、他機関、産業界等との連携を促進して、いかに戦略的に発信してゆけるかが課題と思われる。

1. はじめに

先進国が共通に抱える少子高齢化、経済活動の減速化の中、世界の高等教育機関でグローバル化が進んでいる。我が国では 2008 年 7 月文部科学省が「留学生受入 30 万人計画」を掲げ、2009 年には計画推進の一旦として「グローバル 30」による国際化戦略拠点 13 校が選ばれた。それらの拠点校は 2 つの大学を除き、いずれも都市型の受入留学生数 1000 人を優に超える大規模大学である。

世界を相手にした国際化が避けられない現状の中、信州大学では学長の指導下、将来構想「ビジョン 2015」実現のためのアクションプランとそれを実施する体制が構築され、グローバルな教育研究拠点の形成と教育の質の保証をベースに、「国際化時代の人材育成」をテーマとした国際化への取り組みが始まっている。そこでは大学院に軸を置いた留学生受入を推進することが謳われており、大学院生の増加は数的に表れ始めている。また、国際交流センターを中心とした交流協定締結推進の努力によって、交換留学生数も着実な伸びを示している。一方で、学部における正規留学生数は減少傾向にやや歯止めがかかったところである。

様々な利便性や知名度からみれば、外国人留学生達が都市の大規模大学を志向しがちになることを引きとめることは容易ではないが、中規模とはいえ、信州大学は人文系から理系、医学系まで様々な分野に渡る 8 学部 1 部局を有する総合大学である。また、キャンパ

スが信州の各地に分散していることでそれぞれが持つ独自の魅力も考えられる。留学生の日本留学に対する期待に応えるとともに、信州大学ならではの魅力を提供することができれば、今後さらに多くの留学生を獲得できるものと思われる。本研究ではこのような認識のもと、信州大学を選んだ留学生が日本留学の魅力についてどのように考え、大学に何を求めているのか把握するべく、全学の留学生を対象とした調査を実施した。本稿ではこの調査の概要と調査結果を報告し、留学生受け入れにおける本学の課題について述べる。

2. 先行研究

留学生に日本留学の効果や満足度を尋ねた研究としてスネート（2002）、牧（2006）、佐藤（2005、2009）、横田（2009）がある。なかでも、横田研究グループによる『世界と日本の留学生政策に関する研究』では、①先進的な留学生受入れ諸国との比較、②我が国の受入れ機関の認識、③外国人学生の受入れの実態、④送り出し国の状況、⑤日本留学へのニーズといった多角的な観点から調査がなされており、30万人受入計画を策定するためのあらゆる側面が網羅されている。

また、このなかには私費留学生達の「日本への留学目的」、「日本を選んだ理由」に関する分析も含まれており、留学生が考える日本留学の魅力を知る上でも有益な資料が提供されている。これらの先行研究で指摘されている受入れ機関側の課題及び留学生達が捉えた日本留学の魅力は以下のようにまとめられる。

◆日本留学の目的や魅力

- ・高度技術や経済の先進性（特に、中国、東南アジア系）
- ・地理的、文化的距離の近さ（特に、中国）
- ・日本独自の文化、社会、日本語能力向上（特に、欧米系）
- ・研究環境（特に、東南アジア系、東アジア系）

◆課題

- ・大学執行部の積極的なリーダーシップ
- ・英語による専門教育の質の向上（特に欧米系）
- ・留学生の生活支援体制の充実
- ・留学生の学習支援体制の充実
- ・国際交流担当者の専門的力量的向上
- ・日本人の英語によるコミュニケーション能力の向上
- ・経済支援の拡充

留学生が考える日本留学の魅力は、留学生の国籍、留学期間、身分、所属先、奨学金受給の有無等によって異なる可能性がある。また、大学が抱えている課題も、それぞれが置かれている状況、地域の特徴やこれまでの取り組み等によって変わってくるものと思われる。果たして、ここに挙げられている日本留学の魅力や課題は、地方の中規模大学である本学にも当てはまるのだろうか。

本稿では、これらの先行研究結果を踏まえつつ、本学の留学生が信州大学の魅力をどのように捉えているか調査によって明らかにする。そして、その結果をもとに本学の課題を考察し、より魅力的な受入先となれるよう提言を行う。

3. 調査概要

本研究では本調査に先立ち、面談による聞き取り調査を実施した。以下では、調査書作成の手順について説明し、調査の概要を述べる。

3.1 面談による聞き取り調査

調査書で用いる質問文の選定にあたり、面談による予備調査を実施した。面談は 2008 年 11 月から 2009 年 4 月にかけて、信州大学に留学中の留学生 20 名を対象に個人あるいは小グループで行った。日本留学の魅力をできる限り具体的かつ広範に拾い出すことを目的とし、日本語または英語による半構造化インタビューを行い、日本留学の魅力について語ってもらった。

3.2 調査書

調査書¹は、設問Ⅰから設問Ⅲの 3 つのパートで構成されており、設問Ⅰは留学生の属性に関する質問（性別、年齢、出身国・地域、滞日期間、学部、所属、身分、日本語能力）、設問Ⅱ及びⅢが留学の魅力に関する質問である（巻末資料「調査書」参照）。

設問Ⅱの質問文は、上述の聞き取り調査から得られたコメントに加え、(社) 国立大学協会が監修、発行した『国立大学の留学生』（2009）の第 2 章「留学生が母校を語る」の中で、元留学生達が語った意見を参考にして、「～は魅力的である」「～は好ましい」「～がもっとあればよい」といった 37 の設問文を作成した。そして、これら 37 項目のそれぞれの意見に対して同意するかどうかを尋ねた。同意の度合いは「1.大変そう思う」から「2.そう思う」「3.どちらとも言えない」「4.そう思わない」「5.全く思わない」の 5 段階に、「6.分からない」を加えた 6 件法を用いた。

続いて設問Ⅲで、これら 37 項目の中で「日本留学の魅力と深くかかわっていると思う要素」を 5 つ、魅力の度合いの強さに関係なく選択してもらった。最後に、これら 37 項目以外に、①回答者が独自に考える日本留学の魅力、②日本に留学した後、日本・日本人・日本留学の魅力だと思うようになった事柄、③日本や日本の大学が留学生を増やすために改善すべき点について自由記述による回答を求めた。

3.3 調査実施と回収

2009 年 6 月中旬、各学部・部局経由でアンケート調査を実施した。筆者（牧）の所属学部と同じキャンパスにある 1 学部と 1 部局に於いては授業後の集合調査を実施し、その場で調査書を回収した。その他の学部及び隔地学部においては、それぞれの留学生専門教

員あるいは事務担当者から回答者たちへ配布してもらい配票調査方法を取り、回収後は学内便にて返送付してもらった。

調査書配布総数 327 通の内 208 通を回収し、全学の回収率は 63.6%であった。理学部 (44.4%) と工学部(51.2%)を除き、いずれの部局でも 60%以上の回収率が得られ、この調査の一定の信頼性が確保できたと思われる (巻末資料「回収率等集計表」参照)。

4. 調査結果と考察

本章では、アンケート調査の結果について報告する。まず、4.1 節では設問Ⅲの 1) で留学生が「日本留学の魅力と深く関わっていると思う」として選択した項目を取り上げ、全学と学部に分けてその傾向を見ていく。続く 4.2 節では、4.1 節で取り上げた 14 の高頻度項目について、各項目に影響を与えている要因を留学生の属性をもとに、それぞれの特徴をまとめて示す。さらに 4.3 節では設問Ⅱの 37 項目に対する同意度を取り上げ、日本留学の魅力要素として高頻度で選ばれた項目と対比させながら、信州大学における魅力と課題を明らかにする。最後の 4.4 節では設問Ⅲの 2) から 4) で得られた自由記述の回答結果について述べる。

4.1 日本留学の魅力要素

4.1.1 全学

下の表 1 は「日本留学の魅力と深く関わっている」として留学生が選択した割合が高かった項目を示したものである²⁾。

表 1：日本留学の魅力要素

順位	番号	項目内容	回答数	回答率
1	1)	安定した、安全な国	78	38.8%
2	15)	教育水準の高さ	60	29.9%
3	25)	アルバイト許可による経済的自立	48	23.9%
3	37)	留学前確約奨学金	48	23.9%
5	28)	日本で働くこと人生経験に有益	45	22.4%
6	9)	豊かな自然、美しい季節変化	44	21.9%
7	35)	入国後の手厚い経済支援	43	21.4%
8	26)	外見より整った研究設備・環境	42	20.9%
9	22)	日本人の勤勉さ	41	20.4%
10	8)	日本の清潔さ	39	19.4%
11	10)	調和を重んじ迷惑をかけない精神	36	17.9%
11	17)	伝統的で高度な技術	36	17.9%
13	30)	日本語はキャリアにプラス	35	17.4%
14	12)	伝統と先進の融和	30	14.9%

この表から、「安定性・安全度の高さ」をトップに、日本留学の魅力として生活環境に関わる項目を選択した回答者が多く、生活環境のよさは日本に惹きつける魅力的要素と捉えられていることがわかる。『勤勉な日本人達がい、自然や季節が美しく、安定性があって、安全で清潔な日本社会』は充分日本留学の魅力となり

りうると言える(牧 2010)。その次に、「教育・研究のレベル」と「経済的サポート」が続

き、「日本で働くことの意義」について指摘する者も多いことから、卒業後のキャリアへ繋がるかどうかも留学するにあたって考慮する要素であることがわかる。

4.1.2 学部別

次に、学部ごとの結果について見ていく。まず、全体的な傾向として、「安定・安全」「伝統と先進の融和」は9学部・部局すべてが選択し、「教育水準の高さ」は人文を除くすべての学部が、そして、「アルバイトで自立」は理学を除くすべての学部が高頻度で選択していた。表2は、高頻度で選択された日本留学の魅力に関わる項目を学部別に示したものである³。

表2：学部別日本留学の魅力要素

学部	番号	最頻度項目	回答率	番号	次高頻度項目	回答率
人文	11)	伝統文化の魅力	45.5%	1)	安定、安全	36.4%
	30)	日本語はキャリアにプラス	45.5%	12)	伝統と先進の融和	36.4%
経済	15)	高い教育水準	37.0%	1)	安定、安全	33.3%
	22)	見習いたい勤勉さ	37.0%	25)	アルバイトで自立	33.3%
理学	1)	安定、安全	50.0%	5)	日本語の意義	37.5%
				9)	豊かで美しい自然	37.5%
				35)	渡日後の支援	37.5%
国際	1)	安定、安全	40.0%	11)	伝統文化の魅力	30.0%
				22)	見習いたい勤勉さ	30.0%
	9)	豊かで美しい自然	40.0%	25)	アルバイトで自立	30.0%
				20)	日本語コースも重要	30.0%
医学	15)	高い教育水準	61.1%	1)	安定、安全	50.0%
教育	1)	安定、安全	40.0%	22)	見習いたい勤勉さ	30.0%
				25)	アルバイトで自立	30.0%
				8)	清潔さ	30.0%
				28)	日本で働く・人生に有益	30.0%
工学	15)	高い教育水準	39.0%	17)	伝統的で高度な技術	36.6%
	1)	安定、安全				
繊維	1)	安定、安全	31.8%	37)	渡日前確約奨学金	29.5%
農学	1)	安定、安全	50.0%	37)	渡日前確約奨学金	36.4%
全学	1)	安定、安全	38.8%	15)	高い教育水準	29.9%

このように、どの学部・部局でもやはり「安定、安全」の回答率が高くなっている。しかし、何を最重要の魅力要素と捉えるかは学部によって若干差が見られた。例えば、多くの学部・部局の魅力要素が比較的分散している中で、医学部にあっては、「安定、安全」を上回って、「教育水準の高さ」に魅力要素が集中し、均一的な選択になっていることが顕著な特徴と言える。

このような結果を説明するには、影響を与えている要因と留学生の属性（出身地域、在日期間、所属学部、身分の差、奨学金の有無、日本語能力など）との関係についてさらに詳しく分析する必要がある。そこで次節では、それぞれの項目において数量化Ⅱ類分析及び χ^2 二乗検定を実施した結果について述べる。

4.2 魅力要素選択に関わる要因

魅力要素として留学生達が高頻度で選択した14項目について、属性による有意差と数量化Ⅱ類分析による影響要因の分析結果を表3にまとめた。 χ^2 二乗検定では5%を有意水準にとり、数量化Ⅱ類では判別率70%以上を有意な結果として扱った。数量化Ⅱ類では判別率が70%前後と低く、十分に判別できないものも多かったが、 χ^2 二乗検定では幾つかの有意差が得られた。

表3：魅力項目の分析結果

順位	魅力項目	χ^2 二乗検定結果		数量化Ⅱ類分析結果	
		P値	有意差	判別率	影響要因
1	安定、安全な国	<u>0.030</u>	アジア以外が有意に多い	67%	滞在長くなるほど/欧米・アフリカ・西アジア/医学・理学ほど/短期学生あまり意識せず
2	教育水準の高さ	0.063	やや理系が有意に多い	<u>71%</u>	医学と経済/学部生・院生による差大/高学年ほど/東南アジア・アフリカ・西アジア地域ほど
3	アルバイトによる自活	<u>0.047</u>	東アジアが有意に多い	63%	2年以上4年未満で/中国・東南アジア//短期、研究生も/日本語力上級
3	留学前確約奨学金	0.052	理系がやや有意に多い。学部・院生、地域、滞在年数に特に有意差なし	<u>70%</u>	私費留学が考えられない地域/繊維、農学
5	日本就職は人生経験に有益	<u>0.015</u>	東アジアが有意に多い	61%	韓国・モンゴル/修士/人文、国際セ/工学系
6	自然、季節変化の美しさ	<u>0.003</u>	中国以外が高く評価、奨学金ありが有意に多い (0.0506)	<u>74%</u>	滞在長くなるほど/欧米・アフリカ・西アジア地域/理学、人文/奨学金アリ
7	入国後の経済支援の手厚さ	0.076	院生より学部生の方がやや肯定的、有意差なし	63%	学部生/医学/韓国・モンゴル/経済マイナス影響/修士・研究生マイナス影響か

8	外見より整った設備環境	<u>0.034</u>	東アジア以外が有意に多い。2年以上ほどやや有意に多い。	62%	南アジア・アフリカ・西アジア/医学、工学、農学/奨学金ア
9	日本人の勤勉さ	<u>0.014</u>	滞在2年未満とそれ以上では2年未満が有意に多い。	66%	滞在4年を超えると再評価/中国影響要因大/博士/経済
10	日本の清潔さ	<u>0.005</u>	中国、東アジア有意に多い	64%	中国人学生が主たる影響要因/学部生
11	迷惑かけない協調精神	<u>0.000</u>	東、東南アジア系以外が有意に多い。	<u>78%</u>	南アジア・欧米・アフリカ・西アジア/繊維/研究生、博士/日本語はほどほどのレベル
11	伝統的で高度な技術	0.182	文系、理系による有意差なし	<u>72%</u>	中国からの理工系研究生
13	日本語はキャリアにプラス	0.463	文系、理系による有意差なし	<u>74%</u>	圧倒的に人文/交換留学生
14	伝統と先進の融和	0.503	文系、理系による有意差なし	<u>73%</u>	繊維/交換留学生

4.3 魅力要素の同意度と魅力要素の対比による課題の検証

本節では、魅力要素を含んだ質問項目に留学生達がどの程度同意したか、表3の分析結果を踏まえつつ、質問項目ごとの同意度結果（表4）を魅力要素と対比して考察し、その結果をもとに本学の課題を検証していく。

設問Ⅱでは、質問項目に対する同意の度合いを「1.大変そう思う」「2.そう思う」「3.どちらとも言えない」「4.そう思わない」「5.全く思わない」「6.分からない」の6段階で回答してもらい、分析にあたっては、「6.分からない」は除き、1～5のみ採用した。したがって平均値1～2が「同意」、2.01～3が「どちらとも言えない」、3.01～5が「非同意」を表し、数値は小さいほど同意度が強い。表4の最右列の数値は魅力要素として全学において高頻度で選択された項目の順位を示す。

全学で平均同意度が「同意」（1～2）に振れた項目は37項目中23項目あり、内18項目が魅力項目、5項目が課題項目と言える。同意度回答には留学生達が信州に来てから受けた印象、信州の固有要因の影響が反映されていると考えるならば、日本留学の魅力として6番目に挙げられた「9.自然の豊かさや地形・季節変化の美しさ」は全学の平均同意度において最も強く（同意度1.55）、魅力の10番目に選ばれた「8.日本の清潔さ」は2番目に強い同意（1.56）を得ており、特に多くの回答者を占める東アジア系の学生達から信州の魅力として強く認知されている（P値0.005）と考えていい。「1.安定、安全性」は魅力要素では1位に選ばれ、同意度においてもすべての学部で高い同意（1.63）が得られている。

日本社会全体の安定度、安全性が危うくなっている昨今ではあるが、信州の魅力として、特にアジア以外の国籍（P 値 0.030）に対してアピールできる点と言える。魅力要素に高頻度で選択されてはいるが、「18.日本語学習の機会提供」や「31.地域産業界との連携のよさ」も信州の魅力として評価されていると言えよう。

表4：全学及び学部別同意度平均値と全学におけるトップ魅力項目の対比

No.	全学	人文	経済	理学	国セ	医学	教育	工学	繊維	農学	魅力順位
9	1.55	1.42	1.89	1.38	1.59	1.56	1.5	1.44	1.58	1.3	6
8	1.56	1.33	1.59	1.38	1.52	1.5	1.8	1.6	1.57	1.61	10
37	1.59	1.2	1.43	1.86	1.68	1.76	2.1	1.37	1.62	1.55	3
1	1.63	1.75	1.71	1.38	1.91	1.67	1.9	1.65	1.52	1.26	1
20	1.71	1.58	1.75	2.13	1.36	1.78	2	1.58	1.81	1.65	
30	1.75	1.67	1.89	1.38	1.57	2.38	1.9	1.51	1.82	1.57	13
25	1.76	1.83	1.86	1.75	1.81	1.81	1.8	1.65	1.77	1.5	3
32	1.77	2.09	1.79	1.5	1.63	2	2	1.53	1.81	1.61	
28	1.85	1.75	1.86	1.88	1.67	2.35	2	1.56	2.07	1.61	5
18	1.86	1.73	1.93	2	2.1	1.88	1.9	1.77	1.81	1.68	
26	1.86	2.17	2.07	1.63	2.12	1.94	1.9	1.65	1.8	1.52	8
34	1.86	1.92	1.71	1.88	1.71	2.11	2.22	1.81	1.82	1.68	
31	1.87	1.82	1.93	1.29	2.14	2	2.1	1.58	1.88	1.55	
12	1.88	1.83	2	1.43	1.9	1.83	2.3	1.88	1.82	1.73	14
29	1.92	2	1.85	2	1.86	2.21	2.1	1.77	1.98	1.78	
33	1.92	2.36	1.82	1.86	2	1.83	2.2	1.84	1.93	1.77	
17	1.93	2.64	2.04	2.25	2.1	2.22	2.6	1.56	1.77	1.65	11
22	1.93	2	1.93	2	2	1.63	2.3	1.91	2	1.57	9
6	1.95	1.92	2.25	2.13	2.14	2.27	2	1.79	1.72	1.77	
27	1.96	2.33	2.23	1.57	2.06	2.13	2.33	1.65	1.93	1.62	
24	1.99	2.33	2.18	1.63	1.64	1.94	2.1	1.98	2.07	1.65	
10	2	2.83	2.21	1.88	2.14	1.61	2.3	2.09	1.67	1.82	11
11	2	1.91	2.36	1.57	1.77	2.06	2	2.09	1.93	1.91	
14	2.02	2.33	2	2.25	1.86	2.11	2.6	2.02	2.05	1.57	
15	2.05	2.55	2.29	2.25	2.29	1.61	2.8	1.72	2.12	1.78	2
4	2.17	2.58	2.86	1.75	2.59	1.89	1.9	1.93	1.95	1.91	
21	2.21	2.75	2.07	2.63	2.95	2	2.2	2	1.83	1.96	
5	2.23	1.92	2.56	1.88	2.27	2.5	2.8	2.05	2.26	1.86	
2	2.24	2.25	2.37	1.88	2.45	2.17	2.6	2.12	2.21	2	
36	2.29	2.89	2.18	2.25	2.25	2.33	2.78	1.84	2.11	2.67	
35	2.32	2.64	2.43	1.29	2.48	2.39	2.8	2.09	2.19	2.24	7
16	2.35	2.73	2.29	2.25	2.64	2.35	2.6	2.26	2.29	1.91	
23	2.37	2.67	2.56	2.13	2.48	2.47	2.1	2.12	2.39	2.23	
3	2.4	2	3.04	1.88	2.55	2.56	2.5	2.33	2.22	2.05	
7	2.42	2.5	2.82	1.63	2.59	2.44	2.7	2.26	2.3	2.35	
13	2.46	2.27	2.41	2.29	2.55	2.47	2.9	2.44	2.48	2.05	
19	2.88	2.75	3.11	2.13	2.86	2.94	3	2.72	2.95	2.91	

しかしながら、留学生達が2番目に魅力として挙げる「15.教育水準の高さ」は同意度において医学、工学、農学を除き「どちらとも言えない」(2.05)に振れており、信州大学がまだ努力する必要がある課題項目と捉えられる。ことに医学分野、理系大学院レベルにおいて、また経済学部の学部学生達にとって教育水準の高さは留学先選択の重要な要素と考えられている(判別率71%)。また、工学系を始め多くの学部で「28.日本就職を人生にプラス」と考えていると見て取れることから、「卒業後日本で働きたいと思わせる魅力」を信州大学がいかに提供できるかも重要な課題であろう。特に、東アジア系の留学生達にとっては留学の魅力に関わる大きな要素(P値0.015)になっていると言える。

経済支援に関するものを見てみると、「25.アルバイト許可による経済的自立」は日本留学の魅力と捉えられ、全学部が同意している。ことに東アジア系の同意度が高く(P値0.047)、短期留学生からも支持を得ている。しかしながら、「37.留学前確約奨学金の必要性」には強い同意があり、「35.入学後の経済支援の手厚さ」は理学のみ例外的で、それ以外の全学部で「どちらとも言えない」(2.32)に触れていることから、経済支援の拡充が引き続き期待されることには変わりない。このところの学習奨励費の渡日前予約制度の導入と促進はこの点に関する我が国の取り組みの表れということができ、大学側にはこの制度を活用すべく渡日前入学許可制度を早急に導入することが求められる。

この他、「32.ネット上の研究内容の配信が望まれる」、「34.現地高校との交流が必要」、「29.就職情報の更なる充実を望む」、「33.母国に留学相談窓口がもっとほしい」の4項目も同意度が強く、日本と信州大学が留学先としてより魅力的になるために留学生達に求められている事柄と捉えることができる。単独の情報発信ではもはや追いついていくことはできず、G30に採択された大学等が持つ海外拠点を活用していくといったことも大いに検討されるべきであろう。

さらに、今後の信州大学の課題を考える際には、やや否定的に評価されている要素も見てみる必要がある。表4から、私達日本人にとっては肯定的と思える「4.まじめさ」や「16.非戦闘性」が必ずしも好ましく捉えられていない結果が見て取れる。また、大学の国際化の指針の1つと捉えられる「21.英語コースの提供」に対しても「医学」「繊維」「農学」を除けば、「どちらとも言えない」の回答率が高く、数だけでなく質をも問われていると推察される。

37の項目の中で最も否定的に評価されたものは「19.日本人の論文が多く、研究するなら日本と思った」(2.88)である。「日本留学の魅力」に関わる15番目に重要な項目として挙げられながら、いずれの学部においても厳しい非同意評価となった。ネット上の研究内容の配信が求められている点とあわせてみれば、質の高い研究が存在していても英語による発信が立ち遅れている可能性も大いにある。信州大学が「教育の質の保証をベースに大学院に軸を置いた受入れ」を目標とするのならば、英語による情報発信は急務で、「教育水準の高さ」を求める留学生達、特に研究科レベルの留学生達を満足させられていない状況は、重大な課題と言わざるを得ない。

4.4 自由記述

本節では、設問Ⅲの2) から4) で回答を求めた自由記述の結果について報告する。

①『調査書に挙げられた項目以外の魅力』

ここでは、回答者が独自に考える日本留学の魅力について自由記述を求めたが、ほとんどはすでに調査書の質問項目に含まれているものであった。それ以外で挙げられたものも、大半は日本に限らず“留学そのものの魅力”、つまり、現地で学ぶことのメリットや自身の人生経験、人間的成長に有益といったものであったが、なかには「欧米に比べて、学費が安い」というような具体的な記述や「ゼミ、たくさんのフィールドワーク」「深く掘り下げる研究の進め方」など専門分野における授業や研究活動を通して得た気づきに関する記述も見られた。

②『日本・日本人・日本留学の魅力に対する留学後の変化』

ここでもほとんどは調査書に含まれていた内容であったが、基本的には肯定的な変化・評価が多かった。具体的な記載は以下のとおりである。

日本: 自由な生活、便利な生活、世界情勢を知ることができる環境、効率よい社会、公平さ、福祉、建築様式、食文化、温泉文化、ファッション

日本人: 環境に対する高い意識、サービス意識、マナーのよさ、品がある、細かいことまで注意を払う、信頼が強い、友好的、奉仕精神、忍耐強い、節約、郷土・伝統文化を大切にする、偏見・差別を受けない、外国人に対する接し方

日本留学: 教育プログラム、交流イベントなどが整っている、キャンパスの雰囲気、授業方法、成績評価の方法、博士号取得条件がよい、フレンドリーな教員、サークル活動、他の言語が学習できる環境

ただ、“日本人”に関して、「外国人に冷たい」「英語が分からない人が多く、コミュニケーションが難しい」「外国人との会話が自由に始められない」「おとなしい・物静か」「恥ずかしがり屋」「開放的すぎる」という否定的な評価も散見された。

③『日本や日本の大学の改善点』

留学生を増やすために改善すべき点にコメントした者は137名いた。そのうち半数を超える者が経済支援について触れていた。回答者の8割以上が私費留学生であることを反映しているとも言えるが、いずれにしろ、経済支援は引き続き期待される課題と言えそうである。

5. まとめ

以上、本稿では信州大学の留学生を対象に行った日本留学の魅力に関する調査について報告した。分析の結果、本学では「自然環境・生活環境のよさ」が留学の魅力として突出して挙げられ、この点が「高度技術」や「経済の先進性」、「優れた研究環境」が日本留学の魅力と捉えられていた先行研究との大きな違いであると言えよう。本学は地球の未来に貢献すべく環境教育に力を入れており、国内でも付属病院を持つ大学として国際規格

ISO14001 認証を取得した 2 番目の大学である。自然の美しさ・生活環境のよさだけでなく、環境に配慮した先進的な活動に取り組んでいる点も大いにアピールすべき点と言える。

また、「日本人の伝統的・文化的行動規範」が評価されていることも本学における特徴のひとつであり、こうした日本人に対する肯定的な評価は留学後の人的交流によって生まれているものと考えられる。

一方で、課題も山積している。改善点に関する自由記述では、経済支援の必要性、信州大学の知名度の低さと英語による情報発信の重要性、そして英語コースの充実に関する指摘が多く見られた。このことから今後は情報発信に一層の拍車をかけるとともに、経済支援の拡大に力を注いでいくことが大きな課題になると言える。

従来からよく言われる「日本人」に関するいくつかの否定的な評価も自由記述には見られたが、質の高い日本文化、伝統といったソフト面が信州留学の魅力になることを補完してくれる肯定的なコメントも多く見られた。これらソフト面の魅力は実際に留学を体験するまではわかりにくく、留学して初めて実感するものであることを考えると、留学生獲得の鍵は信州ならではの特徴と魅力を伝え、「来て、みなさい」といかにアピールできるかにかかっていると見える。そのためにも他機関、産業界との戦略的な連携が今後益々求められることになるだろう。

調査結果に対する学部・部局単位での考察はこれで十分とは言えないが、諸々の事情から、まずは基本的データを早急に提供することが必要と考え、今回の報告とした。今後、学部単位での魅力と課題がさらに詳細に見えるよう引き続き、分析を加え発表したい。

注

- 1 調査書は信州大学のみならず、より大規模な調査を意図して作成したものであるため、「信州留学」に限らず、「日本留学」の魅力となっている。
- 2 表 1 には 1 項目当たりの平均回答数 (26.5) 以上の項目を挙げた。全学の有効回答数は未回答者 7 名を除く 201 名である。
- 3 表 2 も表 1 と同様、未回答者 7 名を除く 201 名による修正回答率を示したものである。

参考文献・資料

- カンピラパーブ スネート (2002) 「帰国タイ人留学経験者の留学効果に関する研究ー日米比較分析を通してー」『留学生教育』第 7 号 留学生教育学会
- 国立大学協会 (2009) 『国立大学の留学生』第 2 章 「留学生が母校を語る」
- 佐藤由香利 (2005) 「留学生 10 万人計画の成果と今後の展望ーインドネシアとタイに対する日本の留学生政策評価と米国との比較からー」『留学生教育』第 10 号 留学生教育学会
- (2009) 「日本留学成果の促進・阻害要因に関する考察ーインドネシアとタイの元日本留学生の質問紙回答分析からー」『留学生教育』第 14 号 留学生教育学会
- 牧かずみ (2006) 「留学生の日本留学満足度に資する奨学金のあり方とはー医学研究科中国人留学生の視

点からー」『信州医学雑誌』第 54 卷 1 号

—— (2010) 「連携も発信もデュアルが鍵」『留学交流』2010 年 11 月号 日本学生支援機構

横田雅弘 (2009) 『世界と日本の留学政策に関する研究』

(<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~yokotam/index.htm>)

日本学生支援機構 (2007) 「H19 年度私費留学生生活実態調査」

(<http://www.jasso.go.jp/scholarship/ryujchosa19.html>)

<信州大学資料>

信州大学 (2009) 「信州大学国際化推進プラン」

信州大学 (2009) 『国際化時代の人材育成』第 4 回学長フォーラム 2009 : パネルディスカッション用資料

信州大学 (2010) 『信州大学概要 2010』

巻末資料

[調査書]

日本留学に関する調査

本日は、調査にご協力いただき、ありがとうございます。この調査は日本に留学しているみなさんが、日本に留学することの魅力をどのように考え、又どのようにすれば日本留学がより魅力的になるのかを調べ、今後の留学生受入施策に反映させることを目的としています。Thank you for participating in this survey. We are conducting this survey to learn what your expectations of studying in Japan are and how we can make studying in Japan more attractive to students from overseas so that your expectations will be reflected in the future.

私たちはこの調査を実施するに当たり、予備調査として、約 20 名の留学生達に個人やグループでの面談を実施し、日本留学の魅力について語っていただきました。又発行されている冊子の中から元留学生達が語った内容も加え、この調査の設問を作成しました。Prior to this survey, we carried out interview with about 20 students individually and in groups to talk about their own experiences. Adding more comments by former students extracted from a publication, this questionnaire is formulated by restating in a proper style what they had to say.

正しい答えや、間違った答えというものはありません。記名は不要です。回答は統計的に処理され、内容から個人が特定されることや、内容が研究以外の目的で利用されることもありません。ですから、自分が思ったとおりに正直に答えて下さい。There is no right or wrong answer. There is no need to write your name. Please respond frankly. All responses will be kept confidential: Data collected will be processed statistically so as not to identify individual responses and the results are used for research purposes only.

設問は3つのパートで構成されています。回答する際には、それぞれの質問をよく読み、1つの項目も抜かさず、すべての項目に答えて下さい。回答もれのないように、回答終了後にすべての項目に間違いなく答えたか確認をお願いします。The questionnaire is made up of 3 parts. Please read each statement carefully and make sure you answer all of the questions. Thank you!

【問い合わせ先】

牧かずみ (MAKI Kazumi)
信州大学医学部国際交流室
E-mail : maki@shinshu-u.ac.jp
Tel : 0263-37-2713

木暮 律子 (KOGURE Ritsuko)
高崎経済大学地域政策学部
E-mail : ritsukogu@tcue.ac.jp
Tel : 027-344-7533

日本語能力試験（ ）級合格

Japanese Proficiency Test Grade, if available.

※ここで全ての質問に回答したかどうか確認してから、次に進んで下さい。

Make sure you have answered all of the questions before you move on to the next section.

設問 II

日本留学の好ましい点として、あるいは日本留学がもっと魅力的になるための課題として、他の留学生達は以下のように語っています。あなたはこれらの意見をどう思いますか。同意の程度を 6 つの選択肢から 1 つ選び、選んだ番号に○を付けてください。あまり考え込まず、率直に答えて下さい。

Below is what other students from overseas have talked about as their favorable experiences in Japan as well as those points of making studying in Japan more attractive. Circle the number(1-6) that pertains to your opinion. Please reply candidly and try not to spend too much time on each statement.

1	2	3	4	5	6
大変 そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全く 思わない	分からない
I completely agree.	I agree.	Yes and no.	I disagree.	I completely disagree.	I don't know.

1) 日本は安定した、安全な国であるのがよい。

It is attractive that Japan is a stable and safe country.

2) 日本では田舎に住んでも、文化的に進んだ生活ができてよい。

Even in the country you can have a culturally enriched life in Japan.

3) 日本の歴史は興味深い。

Japanese history is interesting.

4) 日本人の真面目さは好ましい。

I regard Japanese people's serious attitude favorably.

5) 世界共通語ではない日本語を学ぶことは意義深い。

Japanese language is not a lingua franca, a universal language. That's why learning it is meaningful.

6) 日本にはお互いに気配りして助けあう文化があるのがよい。

Caring for each other is a positive aspect of Japanese culture.

7) 母国の文化と似ているので親近感を覚える。

I feel closeness in Japanese culture as it resembles my own.

8) 日本の清潔さを見習いたい。

I want to follow the Japanese concept of cleanliness.

9) 日本は自然が豊かで、地形や季節の変化が美しい。

Japan is a beautiful country rich in nature with topographical and seasonal changes.

10) 調和を重んじて、人に迷惑をかけないようにする日本人の精神は好ましい。

I like the Japanese people's attitude of respecting harmony and not troubling others.

11) 日本の伝統的な文化は魅力がある。

Japan's traditional culture is attractive.

12) 日本は伝統と先進的なものが融和していて印象的だ。

I'm impressed by the Japanese harmony between tradition and advanced technology.

13) 日本のポップカルチャーは興味深い。

The Japanese pop culture is interesting.

14) 日本は留学生と地域との交流活動が盛んでよい。

I like that communities in Japan offer many exchange activities with international students.

15) 日本の教育水準の高さは魅力的である。

The high standard of education in Japan is attractive.

16) 日本人は控え目で戦闘的でないのがよい。

I like Japanese people's modesty and non-aggressive attitude.

17) 日本の伝統的で高度な技術を学びたい。

I want to learn advanced Japanese technology rooted in Japanese tradition.

18) 日本では大学や地域が多く日本語学習の機会を提供していてよい。

There are many opportunities to take Japanese courses sponsored by universities and communities.

19) 論文を検索すると、日本の論文が多いので、研究するなら日本だと思った。

I chose Japan to do research because many papers are written by Japanese.

20) 専門の勉強だけでなく、日本語や日本の文化・習慣を学ぶコースが提供されることは重要だ。

It is important that university offers not only specialized study courses but Japanese language and culture courses as well.

21) 英語によるコースをもっと増やせば、日本留学はより魅力的になる。

Studying in Japan becomes more attractive if the number of courses conducted in English increases.

22) 日本人の勤勉さを見習いたい。

I want to learn about Japanese people's diligence.

23) 日本は母国から距離的に近いことがよい。

The geographical closeness to my homeland is one of the determiners in choosing Japan.

- 24) 留学生のためのチューター制度は素晴らしい支援プログラムだと思う。
The tutor system for international students is a good support program.
- 25) 日本ではアルバイトが許可されており、経済的に自立できるのがよい。
It is good that I can be financially independent as working part-time is permitted in Japan.
- 26) 日本の大学では施設の外見よりも実際の研究設備・環境が整っていることが多い。
Japanese universities are often better-equipped with research facilities than they appear to be.
- 27) 日本では企業内での研究も活発なことが魅力的である。
Japan is attractive because I can find lots of research activities conducted not only in academia but also in business organizations.
- 28) 日本で働くことが人生経験を積む上で有益である。
For my future career, it is beneficial for me to work in Japan after the completion of my studies.
- 29) 就職関連の情報がもっと充実するとよい。
It is desirable if more information on career opportunities is provided while in school.
- 30) 日本語を身に付けることがキャリアにプラスになる。
Acquiring the Japanese language is a plus for my career development.
- 31) 日本の大学は地域産業界との連携に積極的なのがよい。
It is beneficial that universities in Japan are active in collaborating with local community and industries.
- 32) インターネットで研究内容に関する情報がもっと発信されるとよい。
More detailed information on research activities should be provided on the Internet.
- 33) 母国に日本留学の相談窓口があると留学しやすい。
It would be easier to come to study in Japan if there were a consultation office set up in my home country.
- 34) 現地の高校との交流を深めれば、日本留学希望者はもっと増えると思う。
Developing more partnerships with high schools overseas would help increase the number of students who show interest in studying in Japan.
- 35) 日本に来てからの留学生に対する日本の経済支援は手厚い。
There is a lot of financial support for foreign students once they enter in Japan.
- 36) 日本政府の国費奨学金制度は制約条件が厳しくないのがよい。
It is good that only limited conditions and qualifications are required for a Japanese government scholarship.
- 37) 留学する前に確約できる奨学金がもっとあるとよい。
It is desirable that more scholarships be available to overseas students, which can be

guaranteed before students leave for Japan.

※全ての質問に回答したかどうか確認してから、次に進んで下さい。

Make sure you have answered all of the questions before you move on to the next section.

設問Ⅲ

以下の質問にお答え下さい。Please answer the following questions.

1) 設問Ⅱの37の項目の中で、あなたが日本留学の魅力と深く関わっていると思う項目5つを選び、その番号を()の中に書いてください。

Among the 37 statements in Section II, which points do you think closely relate to the attractiveness of studying in Japan? Write the numbers of the 5 points you have chosen.

() () () () ()

2) あなたが考える日本留学の魅力は何ですか。設問Ⅱに挙げた項目以外にあれば、できるだけ具体的に書いて下さい。

What is the charm of studying in Japan for you? Are there any, other than those described so far? If so, please write them as specifically as you can.

3) 日本に留学した後で、日本の・日本人の・日本留学の魅力だと思ふようになったことを書いてください。どんなことでも構いません。

Are there any points regarding Japan, Japanese people and studying in Japan that have become favorable after coming here?

4) 留学生を増やすために、今後日本や日本の大学が改善した方がよいと思われることは何ですか。

To increase the number of foreign students studying in Japan, what kind of specific measures Japan and the Japanese universities must take?

最後に、この調査に関するご意見やご感想を自由に書いてください。

Finally, we would like to ask you to write any comments or opinions about this survey here.

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

Thank you for your participation!

[回収率等集計表]

学部別回収率

学部	配布数	回収数	回収率
人文	14	12	85.7%
経済	46	28	60.9%
理学	18	8	44.4%
国際	30	22	73.3%
医学	24	18	75.0%
教育	11	10	90.9%
工学	84	43	51.2%
繊維	72	44	61.1%
農学	28	23	82.1%
全学	327	208	63.6%

滞在期間

1年未満	49	23.6%
1年以上～2年未満	38	18.3%
2年以上～3年未満	31	14.9%
3年以上～4年未満	31	14.9%
4年以上～5年未満	25	12.0%
5年以上	32	15.4%
未回答	2	1.0%
	208	100%

国、地域別回答者数

国、地域	回答数	回収率
中国	119	57.5%
韓国	25	12.1%
バングラデシュ	10	4.8%
ベトナム	8	3.9%
モンゴル	8	3.9%
タイ	7	3.4%
インドネシア	5	2.4%
マレーシア	4	1.9%
ドイツ	4	1.9%
ミャンマー	3	1.4%
ロシア	2	1.0%
フランス	2	1.0%
キルギス	1	0.5%
ラオス	1	0.5%
スリランカ	1	0.5%
台湾	1	0.5%
米国	1	0.5%
リトアニア	1	0.5%
イラク	1	0.5%
エジプト	1	0.5%
タンザニア	1	0.5%
ベニン	1	0.5%
ガボン	1	0.5%
	208	100%

国籍数 23